

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
募集型	65	2,280	4	113	15	525	11	393
その他	88	3,690	145	5,704	112	4,187	103	4,039
計	153	5,970	149	5,817	127	4,712	114	4,432

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れた。

⇒昨年度は 30 件を目標としたが、最終的に 30 件となり目標を達成した。

※平成 26 年度は新車の撮影会があり、撮影料が多かった。

(スチール 30 件、動画 3 件)

年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
撮影件数	45 件	33 件	30 件	34 件
使用料	2,661,751 円	1,517,681 円	1,263,392 円	1,484,741 円

[評価委員会による二次評価及びコメント]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	前年度比 1 万人増を評価する。目標人数を再検討してもよいのではないか。

- ・平成 28 年度と比較すると、1 万人の増加を見たことを評価したい。[小林]
- ・10 周年事業の影響をどのように評価・検証しているのか。[菊池]

⇒事務局：10 周年事業の各イベントが、新聞、広報紙、タウン紙などに取り上げられたこと、H P や S N S で多くの発信が出来たことは年間観覧者の増加に一定の効果はあったものと考えます。
- ・総数においては S 評価としてもよいと思われるが、個別の事業で未達があるため A とした。ここ数年の実績に鑑み、目標人数を再検討してもよい時期に来ていると思われる。[柏木]
- ・企画展により大きく左右されると思うが、過去最高の観覧者数であり、高く評価される。数値で評価できる目標は、段階を設けて評価しても良いのでは。[草川]
- ・観覧者数の目標値において未達成の企画もあるが、全体として開館初年度を除く過去最高という点はたいへん評価できる。[丹治]
- ・単純に 10 万人を達成したからというのではなく。あくまでそれ以上を目指してほしい。[本間]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	A	イベントの実施や広報活動等を講じ、観覧者数確保に努めている。

- ・増加要因が働きかけとの連動によるものとし、試みられた実施目標を評価したい。
〔小林〕

- ・県央部・県東部の割合増加をどのように捉えているか。[菊池]

⇒事務局：毎年継続している京浜急行線、東急線への駅貼り、窓上広告の掲出や、
県央部・県東部のターミナル駅である横浜駅構内でのデジタルサイネージの効果が出てきていると思われます。

- ・実施目標に設定した各項目に対する取り組みが、達成目標の実績数値に結びついていると思われる。[柏木]

- ・各種イベントの実施や効果的な広報活動等いろいろな策を講じ、観覧者数確保に努めている。[葛川]

- ・資料を拝見すると、時代の波に乗り遅れている。今時、新聞購読者が減っているのに新聞広告に頼りお金をかけるのは、ナンセンスだと思う。旅行会社に働きかけるというのも具体的な美術館側の提案資料も不明である。

商業撮影もどの程度か相手先も不明なので件数と金額だけでは漠然としていて評価できない。イベントを開催するというのも人数制限があり、告知をすれば受け入れも出来ない状態を感じる。「本間」

⇒事務局：美術館の広告媒体としては、交通広告を中心に考えています。新聞広告に関しては年に数回程度、格安のプランの提案があった場合には実施していますが、基本的には記事としての無料掲載を期待して展覧会毎にプレスリリースを行っています。

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

[一次評価]

達成目標	実施目標
S	A

【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数 延べ2,000人

(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

[目標設定の理由]

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなるものです。
- ・29年度は、ギャラリートークボランティア、小学生美術鑑賞会ボランティアとともに新規募集を行わなかったため、研修の回数は28年度より少なくなります。
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは2~3名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。
- ・プロジェクトボランティアの活動は、春・夏・冬の年3回となっています。
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、29年度の目標は、延べ2,000人とします。

[一次評価の理由]

- ・29年度の延べ参加者数は2,693人となり、目標を大きく上回りましたので、S評価としました。
- ・ギャラリートークボランティアの参加者数について、29年度は新規募集を行わなかつたため、研修の回数が減りました。しかし、年度の途中から土曜日を除いた祝日にもギャラリートークを行うようにしたため、結果的に参加者数は微増しています。ギャラリートークボランティアの人数増加に伴い、一人当たりのトークの回数が減ってしまったので、トークの日数を増やしましたが、このことによって、ボランティアは高いモチベーションを維持できています。また、ギャラリートークへの参加者も1.2割増加しており、来館者サービスの充実につながっています。
- ・小学生美術鑑賞会ボランティアの参加者数について、29年度は新規募集を行わなかつたため、研修の回数が減り、それが参加者数にも影響しています。

- ・プロジェクトボランティアの活動について、29年度は通常通り年3回（GW、夏、冬）のイベントを開催しました。28年度に比べてイベントの回数が減るので、企画イベントへの参加者数も減少することを見込んでいましたが、予想をはるかに上回る結果となりました。定員制のイベントを開催する場合、当日自由参加できるイベントも同時に開催し、誰もがイベントに参加できるようプロジェクトボランティアが工夫した成果です。
- ・みんなのアトリエボランティアの参加者数については、昨年よりも減少していますが、「みんなのアトリエ」への参加者数が少ないため、申出を断る場合もありました。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数 (単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
ギャラリートークボランティア	323	289	334	338
小学校鑑賞会ボランティア	194	195	263	197
みんなのアトリエボランティア	28	22	34	21
ギャラリートーク参加者	345	337	371	453
プロジェクトボランティア	229	225	283	272
プロジェクト当日ボランティア	50	38	27	49
企画イベント参加者	1,086	1,142	1,350	1,363
計	2,255	2,248	2,662	2,693

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
- ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

【目標設定の理由】

- ・ボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。美術館への親近感や愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・ボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環として考えています。ボランティアがそれぞれの経験やアイデアを活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、それがやがて地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動を周知したり、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのような美術館の事業に関わる活動の充実などを検討していきます。

[一次評価の理由]

(全体として)

- ・活動の目的や内容が異なるので、基本的にはギャラリートークボランティアと小学生美術鑑賞会ボランティアの活動は分けて考えていますが、学芸員による所蔵品展や企画展のレクチャーについては、希望すれば横断的に出席できるようにしています。ボランティア同士の交流の場にもなっており、お互いに良い刺激を受けているようです。
- ・ギャラリートークボランティアの自主研修の補助や、プロジェクトボランティアのイベント開催に向けてさまざまな方法や道具を試すなど、各活動において、ボランティアに対して細かい対応ができます。

(ギャラリートークボランティア)

- ・開館10周年を記念し、第2期所蔵品展において、「特集：ボランティアが選んだ朝井閑右衛門」を開催しました。ギャラリートークボランティアが、一人一点朝井閑右衛門の作品を選び、それに解説をつけて展示するという取り組みを通して、所蔵品展にますます親しみを持ち、ギャラリートークへの意欲が湧くことを期待しました。来館者も、学芸員とは異なる解説が新鮮だったようです。また、この取り組みによって、ギャラリートークボランティアの存在を広く周知できたのではないかと考えています。
- ・29年度は、ボランティア自身が研修を準備・進行する自主研修を9回行いました。日本近代美術における主な美術団体を研修テーマとし、各回1～2団体について担当者が調べてきたことを発表、情報を共有し、意見交換しました。
- ・ギャラリートークでは、当日の担当者間で取り扱う作品を分担し、それぞれ工夫した個性的なトークを展開しています。

(小学生美術鑑賞会ボランティア)

- ・企画展毎に、担当学芸員によるレクチャーを行い、企画展でもボランティアが安心して小学生を受け入れられるようにしました。
- ・ボランティア2名に1クラスの引率を任せており、責任感とやりがいを持って取り組んでもらいました。

(「みんなのアトリエ」ボランティア)

- ・29年度も新規登録者が増えました。これまで活躍していたボランティアは経験が豊かになり、参加者と自然な交流ができるようになりました。

(プロジェクトボランティアについて)

- ・29年度は、GW・夏・冬にイベントを企画・開催しました。とりわけGWのイベントは、ボランティア結成10周年を記念して、10種類の活動を一度に楽しめるイベントを企画しました。これまでの経験を最大限に生かし、もりだくさんの内容であったため、幅広い世代が楽しめるイベントとなりました。

- ・プロジェクトボランティアのイベントは、「だれでも参加できる」「美術館を活かした活動」という点に留意しながら、ボランティア自身が発案し運営するイベントです。それぞれのイベントは地域の行事として定着し、市民を中心に多くの方が参加しています。
- ・ボランティアの経験値が高くなつたことで、イベント開催に向けて色々と準備が進められるようになりました。また、当日の進行がスムーズに行われています。

[次年度への課題]

- ・ギャラリートークボランティアおよび小学生美術鑑賞会ボランティアを新規募集します。ボランティアとして活躍できるよう、研修やサポートを充実させます。
- ・ギャラリートークボランティアの普段のトークをふりかえり、より良くするための研修をします。
- ・小学生美術鑑賞会ボランティアについては、タイムキーパーとしての役割に加え、児童の鑑賞活動をよりサポートできるよう、研修を行います。
- ・プロジェクトボランティアの意向を尊重しながら、安心・安全なイベントの開催をサポートします。

[評価委員会による二次評価及びコメント]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	S	S	目標値を大きく上回っており、目標人数を再検討してもよい時期にきていると思われる。

- ・ボランティアの参加者人数の目標 2,000 人を大きく上回っているということで、S 評価になっている。しかし、その数字が昨年度の数字と比べてどうなのか。また、美術館が課題としている方向性との関連でのボランティアの強化が図られたのか否かという点、こうした視点も評価基準になることを付記する。[小林]
- ・ここ数年の実績に鑑み、目標人数を再検討してもよい時期にきていると思われる。[柏木]

- ・目標値を大きくクリアしている。[草川]
- ・ボランティア活動への市民の参加が増加し、定着している。来館者サービスの充実となっている。[丹治]
- ・参加者が重複している可能性もあるので、実人数はいったい何人なのでしょうか。

[本間]

⇒事務局：ボランティア登録人数：47名

内訳 ギャラリートーク：16名、小学生美術鑑賞会：20名、みんなのアトリエ：13名、プロジェクト：14名 ※ 重複登録あり

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
実施目標	A	S	達成目標に匹敵する定性的評価ができる。

- ・達成目標に匹敵する定性的評価ができる。[菊池]
- ・ボランティアの自主性に配慮した細やかな対応が、達成目標の実績数値に結びついていると思われる。[柏木]
- ・小学生のための美術館鑑賞会が美術への興味や関心をもつききっかけとなることは、児童に美術を通して豊かな感性を育むと共に、美術館に足を運ぶきっかけとなっている。今後も充実した取り組みをお願いしたい。[丹治]
- ・小学校の授業で見学し美術に対する心を育んでいるのに、中学高校に進学してからの継続がないのはとても残念である。ボランティアの生の声や年齢構成も不明なので判断できない。[本間]

【由緒の説明文】

説明文題名	説明文摘要	説明文本文	説明文脚注
説明文題名	説明文摘要	説明文本文	説明文脚注

II 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

[一次評価]

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】企画展の満足度 80%以上*

[目標設定の理由]

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行ってています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。
- ・満足度の内訳を見していくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、一方「作品」「配置・見やすさ」そして解説については改善の余地があります。
- ・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

* なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は
$$(A \cdot a + B \cdot b + C \cdot c + D \cdot d + E \cdot e + F \cdot f) / (A + B + C + D + E + F)$$
で表します。

[一次評価の理由]

目標の「80%以上」を超える89.6%という数値となりました。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
企画展満足度	84.6%	87.0%	88.0%	89.6%

企画展別にみると、「デンマーク・デザイン展」は、日本で初めてデンマーク・デザインの歴史について家具などを中心に構成した展覧会でした。とりわけ作品の満足度は91.5%と高く、安らぎのある心地よいライフスタイルがテーマでもあり「心的充足」や

「配置」も高い数値を得ています。

「美術でめぐる日本の海」は日本画、油彩画、写真、浮世絵、ポスターから、船絵馬、万祝、大漁旗など幅広く海にまつわる造形物を紹介する展覧会でした。「作品」については87.5%、「配置・見やすさ」は85.2%という数値で、バリエーションの豊かさが満足度を押し上げたと考えられます。

「tupera tupera 絵本の世界展」では人気ユニット tupera tupera による絵本原画を中心とした初めての大規模個展でした。出品点数の多さや、撮影スポット、映像など工夫を凝らし、「作品」は95.6%、「心的充足」は90.4%と軒並み高い数値であり、「総合」でも90%を超えるました。

「伊藤久三郎展」は、ご遺族から寄贈された油彩、デッサン類を整理し、代表作を加えて開催する22年振りの回顧展でした。「作品」は88.3%、「配置・見やすさ」は86.2%と高い数値でしたが、「心的充足」は75%とやや80%を下回りました。総合的には約80%という結果となりました。

「青山義雄展」では、横須賀ゆかりの洋画家の展覧会でした。「作品」「心的充足」については約90%前後と高い数値が出ました。概ね高い満足度を示し、総合的には90.6%となりました。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要ですが総合的に89.5%と高い満足度を示しています。

また、要素別に満足度を検討すると、「観覧料」「解説・順路」については、80%を下回るなど相対的に低い数値となっており、改善が難しい点もあります。一方、「作品」や「配置・見やすさ」については概ね高い数値となっています。

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を、図書室で収集・整理・保管・公開する。
- ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

【目標設定の理由】

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかなくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企

画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関するを中心、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

[一次評価の理由]

29年度の企画展は、海外のデザイン展、親しみやすいテーマ展、人気の絵本作家展、近代画家の個展など多岐にわたっていました。

「デンマーク・デザイン展」は日本で初めて本格的にデンマークのデザインを紹介した展覧会です。19世紀末からの約120年間の歴史を、家具、テーブルウェア、照明器具等を中心に約190点を展示し、座れる椅子のコーナーや写真撮影スポットも設けました。デザインや快適なライフスタイルに共感する人々に支持されました。

開館10周年の記念でもある「美術でめぐる日本の海」では、日本画、油彩画、写真、浮世絵、ポスターから、船絵馬、万祝、大漁旗など海に関わる様々な造形物を取り上げ、日本人と海の関わりを多面的に紹介しました。幅広い年齢層の方々が楽しめるよう、写真撮影スポット、絵本、ぬり絵コーナーを設けました。

「ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界展」では、人気の絵本作家 tupera tupera による絵本原画やイラストレーションを中心に、雑貨、工作などを一堂に展示しました。撮影スポットも人気のコーナーとなり子ども連れの方々から多く支持されました。

「没後40年 伊藤久三郎展」では、ご遺族より寄贈していただいた多くの油彩、素描類を整理し、各地の代表作を加えて、改めて洋画家・伊藤久三郎の仕事の全貌を紹介する22年振りの展覧会を開催しました。

「青山義雄展」では、横須賀出身であり、フランスで活躍した彼の画業を顕彰しました。色彩豊かな風景画に特徴があり、初期から晩年にかけて徐々に鮮やかになっていく作品に、多くの方が共感したと考えられます。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。平成29年度は開館10周年にあたり、前年度に行った来館者によるコレクションの人気投票の結果を特集に反映させるなどの工夫をしました。

第1期では、人気投票の結果を反映させた「みんなが選んだベスト・コレクション」と題し、上位30位までの作品とともに、投票時のコメントと共に掲出しました。

第2期では、特集として、編み師203gow の作品展を北側展示ギャラリーにダイナミックに展示しました。また展示室5では「ボランティアが選んだ朝井閑右衛門」と題し、ボランティアの方のコメントと共に作品を展示しました。

第3期では、横須賀出身の岡本健彦の作品11点を追悼展示しました。

第4期は「横須賀のアーティスト」を特集し、所蔵品の中から特に横須賀出身の作家を集中的に取り上げ、借用作品も加えて展示しました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年4回の展示替えを行っています。所蔵品展と同様に、来館者による投票を行いました。29年度は、1期では「船を見た日」、2期では「あの日の海の色」、3期は投票結果を反映させた「みんなが選んだ谷内六郎」、4期では「おやすみからおはようまで」というテーマをたてました。また第3期では谷内六郎館エントランスのレイアウトを変更して見やすくすると共にフォトスポットを設置しました。

教育普及事業（一般向け）については、一覧すると下表のようになります。

参加者と講師、主催者が互いに質の高いコミュニケーションを取れるよう、そのつど適正な規模を考えて実施しています。また、講師と美術館スタッフが打合せを重ね、入念な準備を行なっています。

なお、平成29年度は、「ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界展」に合わせ、絵本の朗読と、その絵本に関連する音楽による野外コンサートを行いました。対象年齢やジャンルの枠をまたぐ新しい試みでしたが、好評を得ることができました。

講演会・アーティストトーク

(単位：人)

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
美術でめぐる日本の海展関連「大漁旗トーク」	7月17日	森庄平(大漁旗研究家)	70	—	50
tupera tupera 展関連「tupera tupera とビューティフルハミングバードの絵本ライブ」	9月9日	tupera tupera、ビューティフルハミングバード	—	—	387
伊藤久三郎展関連講演会「戦争の描き方」	12月2日	原田光(美術史家)	—	—	20
青山義雄展関連講演会「青山義雄 人と芸術」	2月18日	橋秀文(神奈川県立近代美術館企画課長兼普及課長)	70	—	40
第4期所蔵品展関連アーティストトーク	2月11日	井上裕起(出品作家)	70	—	32
第4期所蔵品展関連アーティストトーク	3月10日	安木洋平(出品作家)	70	—	63
第4期所蔵品展関連対談 版画家・磯見輝夫×藤田修	2月12日	磯見輝夫、藤田修(いずれも出品作家)	70	—	30
学芸員によるギャラリートーク (各企画展)	6月10日 7月22日 9月30日 11月25日 3月17日 3月27日	当館学芸員	—	—	125 *合計

展覧会関連ワークショップ

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
青山義雄展関連ワークショップ 「キラキラきらめくカラフル砂絵」	2月25日	宮地淳子(画家、砂絵工房 J's主宰)	20	26	20
第4期所蔵品展関連ワークショップ 「海の見える哲学カフェ」	3月11日	土屋陽介(開智日本橋学園中学高等学校教諭。開智国際大学非常勤講師)、広瀬美帆(出品作家)	30	—	7

オトナ・ワークショップ

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
「katakata の型染め風呂敷」	11月4、5日	Katakata(松永武・高井知絵/染色作家)	15	51	13
「フックドラグの鳥ブローチづくり」	11月23日 (2回)	イワタマユミ(羊毛作家)	20	52	17

映画上映会

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
冬のシネマパーティー	2月3日	キノ・イグルー(移動映画館)	30	47	28
『メットガラ』(日本語字幕版)	2月4日		30	31	29

教育委員会他課との連携

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
第41回 横須賀市市民大学特別講座「マティスと青山義雄」～二人の画家による日本とフランスの文化交流～(横須賀市生涯学習財団との共催。ウェルティ市民プラザ)	2月28日	浅間哲平(静岡県立大学講師)、沓沢耕介(当館学芸員)	80	—	65

図書室に関しては、定期購読雑誌や作品集をはじめ、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書、展覧会図録、自館で開催する展覧会に関する資料、子ども向けの美術入門書などを収集しています。配架の工夫や室内案内表示により利用しやすい環境づくりに努めているほか、展示室内にも案内用のファイルを置き、利用を促しています。

[評価委員会による二次評価及びコメント]

	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	「観覧料」「解説・順路」など改善に限界がある中、他項目で高評価を得てカバーしていることは評価できる。